

# 令和5年度 学校自己評価システムシート ( 県立草加高等学校 全日制の課程 )

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 目指す学校像 | 知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図り、地域の進学校として信頼される学校 |
|--------|---------------------------------------|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 「主体的・対話的で深い学び」の実践により、多様な社会変化に適応できる能力を向上する。<br>2 教育活動の全ての場面を通じて、豊かな人間性と向上心を育み、自主自律の精神を伸長する。<br>3 高い進路目標の実現を目指す地域のリーディングスクールとして、地域に信頼され愛される学校づくりを推進する。 |
|------|--|

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |   |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者    | 名 |
|     | 生徒       | 名 |
|     | 事務局(教職員) | 名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 |   |   |  |   |           |     | 学校関係者評価     |        |  |
|--------|---|---|--|---|-----------|-----|-------------|--------|--|
| 年度目標   |   |   |  | 年度評価(1月31日現在)   |           |     | 実施日         | 令和6年月日 |  |
| 番号     | 現状と課題   | 評価項目  | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |        |  |
| 1      | 〔現状〕<br>生徒の学習態度は真面目で、与えられた課題に対する取組は良好である。生徒の大半が4年制大学への進学を希望している。生徒自身が高い進路目標を設定し、その目標に向かい主体的に取り組む、自己実現を果たす能力を高める必要がある。   | ○主体的・対話的で深い学びの拡大<br><br>○教員の指導力向上と授業改善  | ①ICTを生徒が活用した授業を推進し、学習の多様化、効率化を図る。<br>②アクティブラーニングによる授業実践を推進し、生徒の主体性、協調性、表現力を伸長する。<br>③補習の充実、学習スペースによる学習機会の提供により、主体的に学ぶ環境を拡充する。  | ①ICTを生徒が活用した授業の実施状況 [年度末集約]<br>②「学校評価アンケート」による、対話的で深く考えさせる授業が行われている割合 [年度末調査]<br>③「学習状況アンケート」による自主学習時間、学習スペース等の利用者数、補習及び学習会等の参加者数 [年度末調査]                     |           |     |             |        |  |
|        | 〔課題〕<br>多様な社会変化に適応できる能力を育成するため、アクティブラーニングを推進し、生徒自身がICT機器を活用しながら、課題を自ら発見・解決する能力や、物事を論理的に捉えて分析し、根拠を示しながら表現する能力を育成することで、生徒の高い進路目標を実現する必要がある。   |   | ①指導力向上研修への参加、研究授業の実施、授業相互見学等を推進し、指導力向上を図る。<br>②授業アンケートを実施し、教科ごとに改善策を検討し、授業改善を行う。<br>③観点別評価の導入2年目にあたり、ルーブリックにおける評価指標を検証し、PDCAサイクルをもとに、毎年改善する体制を構築する。                      | ①指導力向上研修参加者数及び授業相互見学の回数 [年度末調査]<br>②「授業アンケート」結果の分析及び改善策のフィードバック状況 [年度末集約]<br>③本年度実施科目のルーブリックにおける評価指標の検証、修正の取組み状況及び来年度導入科目のルーブリック作成状況 [年度末集約]                  |           |     |             |        |  |
| 2      | 〔現状〕<br>部活動加入率は80%以上で学校行事にも意欲的であり、学習活動と特別活動の両立が本校の教育活動の根幹である。生徒は指示されたことを確実に行動しようとするが、自ら考えて行動することが苦手で、潜在能力を引き出す工夫が不足している。生徒が高い目標を目指し達成感や充実感を獲得することで自己肯定感を向上する必要がある。                            | ○高い進路目標の設定及び実現のための意識の高揚及び戦略的な進路指導の実践<br><br>○探究活動の充実及び特別活動における自主自律を重視した自己研鑽能力の育成              | ①高い進路目標に生徒が挑戦する意識を高揚させるため、キャリア教育を含む各種進路関連行事を改善する。<br>②策定した本校の進路指導方針を共有し、高い進路目標を実現するために戦略的な進路指導を実践し、生徒の然るべき進路を実現する。   | ①進路関連行事の実施状況及び進路関連行事の内容や時期が適切である割合 [年度末調査]<br>②-1 生徒の進路希望実現に十分に組み入れている割合、生徒ひとり一人に丁寧な進路指導が行われている割合 [年度末調査]<br>②-2 国公立及び中堅・難関大学受験者数及び合格者数 [年度末集約]               |           |     |             |        |  |
|        | 〔課題〕<br>豊かな人間性と生徒の向上心を育むため、教育活動の全てにおいて生徒が自ら高い目標を持ち、その目標の実現に向かい取り組む意識を高揚させる必要がある。特別活動や学校行事においては、自主自律の精神を伸長し、他と連携・協調しながら自己実現を目指す意識を高める必要がある。また、AIやICTが普及し大きく変革する社会に対応するため、探究心と課題解決能力を伸長する必要がある。 |   | ①「草加高校の総合的な探究の時間」を確立するため、総合的な探究の時間の内容を充実させるとともに、教育活動全般で探究活動を推進し、他と連携・協調しながら課題を解決する能力を伸長する。<br>②特別活動や学校行事を含む教育活動全般で自主自律を促し、生徒が高い目標に挑み、課題を克服し、達成感や充実感を獲得することにより、自己肯定感を高める。 | ①探究活動の取組状況及び実施回数 [年度末集約]<br>②-1 特別活動や学校行事、生徒会活動等における生徒主体の活動実施状況及び生徒満足度 [年度末集約]<br>②-2 学校評価アンケートによる、主体性を伸ばす取り組みに積極的である割合及び部活動の目的や目標、活動状況は適切であり、満足できる割合 [年度末調査] |           |     |             |        |  |
| 3      | 〔現状〕<br>保護者とは教育諸活動への協力体制が構築されている。地域や他の教育関係機関等との連携を高め、より地域に根ざし、信頼され愛される学校づくりを推進する必要がある。  | ○豊かな人間性の醸成、教員や学校と生徒・家庭の信頼関係の再構築及び保護者や地域との連携の拡大<br><br>○地域のリーディングスクールとしての今後10年を見据えた学校運営基本方針の構築 | ①学校行事や部活動・生徒会活動等を通して社会的規範意識を醸成する。また一方的な指導ではなく生徒との対話と相互理解を推進し、教員や学校と生徒・家庭の信頼関係を再構築する。<br>②中高連携業務の充実による効果的・積極的な情報発信及び各種催事やボランティア活動、地域の教育機関や公共機関等と交流・連携・協力を推進する。            | ①-1 懲戒指導件数、遅刻者数、転退学者数 [適宜調査]<br>①-2 生徒と教員の信頼関係が築けている割合及び家庭と学校の連絡や連携がうまくとれている割合 [年度末調査]<br>②-1 学校HPの閲覧数及び中高連携業務の実施状況 [年度末集約]<br>②-2 地域活動への参加状況 [年度末調査]         |           |     |             |        |  |
|        | 〔課題〕<br>地域に信頼され愛される学校づくりを推進するため、学校生活全般を通じて他者を意識した規範意識の醸成、教員や学校と生徒及び家庭の信頼関係の再構築を行うとともに、地域や外部機関等との連携を深める必要がある。高い進路目標の実現を目指す地域のリーディングスクールの構築を推進するため、長期的な視点による学校運営の改革を継続するとともに、入学志願者を増加させる必要がある。  |   | ①長期的視点により今後10年を見据え、地域のリーディングスクールとしての学校運営の在り方を検討する。<br>②英検等の資格取得を推進し、各種入試方法に対応する。<br>③生徒募集活動を改善し、12月期進路希望倍率1.2倍を確保する。   | ①-1 国際理解教育や社会貢献活動等への参加生徒数 [年度末集約・調査]<br>①-2 総合的に考えて魅力的な学校である割合及び入学させてよかった割合 [年度末調査]<br>②英検等の資格取得人数及び割合 [年度末調査]<br>③12月期進路希望倍率 [年度末調査]                         |           |     |             |        |  |